「マイナビ ツール･ド･九州 2025」の経済波及効果

～ フランスの伝統レースから学ぶ市民サイクリング大会との相乗効果 ～

【要旨】

- 「ツール･ド･九州」は、国際自転車競技連合（UCI、Union Cycliste Internationale)の公認を受けた国際サイクルロードレースである。
- 3 回目の開催となる「マイナビ ツール･ド･九州 2025」は、2025 年 10 月 10 日から 13 日までの 4 日間にわたり、長崎県、福岡県、熊本県、宮崎県、大分県の 5 県を舞台に開催された。総観客数は 10.7 万人、前年比+0.6 万人となり、目の前を駆け抜ける選手たちの力走に多くの観客が声援を送った。
- 本稿ではレース開催による（1）経済波及効果を推計するとともに、（2）来場者アンケートの分析や（3）海外事例により、九州の魅力発信と更なる経済の活性化について考察した。
- （1）来場者の観光消費額や大会事業費をベースとした第 3 回大会の波及効果は約 28 億円と推計された。
- （2）来場者アンケート分析からは、家族や友人等との来場が多く、レース観戦に加えて飲食･観光を楽しむ来場者が多いこと、満足度が総じて高いこと、再訪意向が高水準にあることなどが明らかとなった。
- （3）フランスの伝統的な自転車ロードレース「ダンケルクの 4 日間」および市民サイクリング大会の事例についてのヒアリング調査からは、ロードレース大会と市民イベントの連携や、地域･スポンサー･住民が一体となった運営の重要性など、今後のツール･ド･九州の持続的な発展に向けた多くの示唆が得られた。
- 本報告書が今後の大会運営や地域活性化施策を検討する際の一助となることを期待する。

2026 年 3 月

マイナビ ツール･ド･九州 2025 コンサルティングパートナー

株式会社日本政策投資銀行 九州支店

（協力：株式会社日本経済研究所）

本レポートの作成にあたり、一般社団法人ツール･ド･九州様、一般社団法人九州経済連合会様に多大なるご協力を頂きました。貴重な情報をご提供いただきましたことに、感謝を申し上げます。

DBJ

目次

はじめに 1
1. マイナビ ツール・ド・九州 2025 の概要 2
(1) 大会概要 2
(2) 観客数 5
(3) 【コラム】「佐世保クリテリウム」観戦記 6
2. 2025 年大会経済波及効果の推計 7
(1) 最終需要 7
(2) 経済波及効果 10
3. 観戦者に関するアンケート分析結果 11
(1) 会場アンケートについて 11
(2) アンケート結果 11
4. 【レポート】ツール・ド・九州をもっと盛り上げるために！フランスの伝統レース「ダンケルクの 4 日間」から学ぶヒント 22
おわりに ツール・ド・九州とともに発展する地域を目指して 27

はじめに

ツール･ド･九州は、九州の経済団体トップと各県知事で構成される九州地域戦略会議において開催が決定された、UCI(Union Cycliste Internationale 国際自転車競技連合）の公認を受けた国際サイクルロードレースである。2023 年の第 1 回大会以降、毎年開催されており、2025 年は第 3 回大会「マイナビ ツール･ド･九州 2025」として開催された。世界トップクラスの選手たちのレースを生で観戦することができることから、年々関心も高まっており、大会を契機とした観光の拡大にも期待が寄せられている。

また、今大会は新たに長崎県（佐世保市）、宮崎県（延岡市）もコースに加わり、5 県にまたがるレースとなったことで話題性が高まった。

本稿は、ツール･ド･九州の開催による地域への影響について、経済効果の側面から把握を試みるものである。具体的には、レースが開催された長崎県、福岡県、熊本県、宮崎県、大分県を対象に経済波及効果の推計を行った。

（一般社団法人ツール･ド･九州より許諾を得て転載）

1. マイナビ ツール･ド･九州 2025 の概要

(1) 大会概要

2025 年 10 月 10 日（金）～13 日（月･祝）まで 4 日間にわたり、長崎県･福岡県･熊本県･宮崎県･大分県の 5 県で開催された。

UCI 公認レースには 4 つのグレードがあるが、本大会は上から 2 番目に位置するクラス 1 のレースである。そのため、海外を含むハイレベルなチームや選手が参加して開催される国内でも数少ないレースであり、大会の大きな魅力となっている。今回は海外からワールドチーム 2 チームを含む 8 チームを招聘し、合計 18 チーム･106 人（20 か国）の選手によって白熱したレースが展開された。

本大会の全走行距離は 399.53km である。初日は佐世保市の市街地に設けられた約 1.5km の周回コースを 30 周で競い、その後は福岡県･熊本県･宮崎県･大分県の順に、それぞれの開催地で設定された区間を 3 日間かけて転戦し競い合った。各コースによって、都市部･田園部･沿岸部･山岳部と特性が多様であり、また高低差も大きい。なにより、一般道を利用したコースであることから、観戦者は世界トップクラスの選手達の息遣いを感じられるほどの距離でレースを楽しむことができる。

図表 1　開催概要

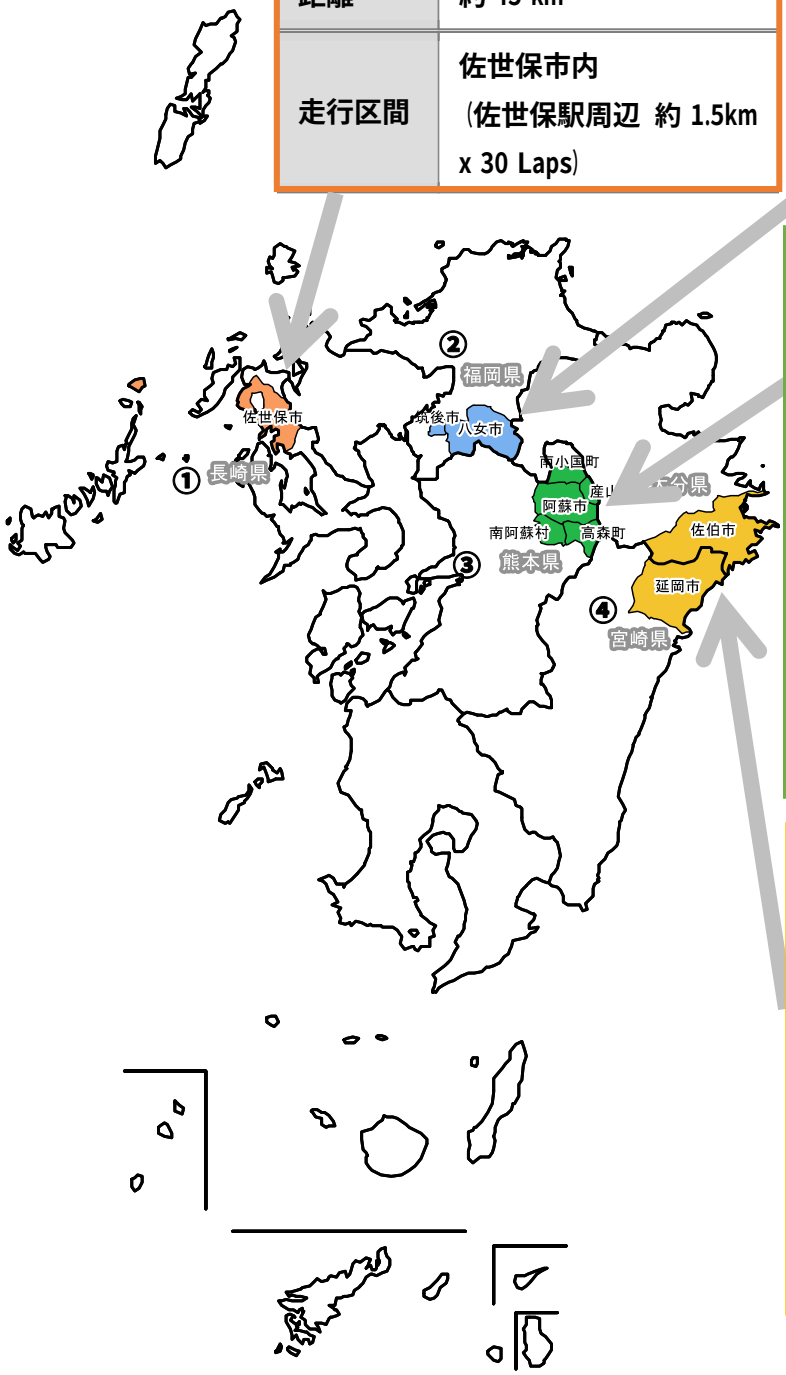
大会名称	マイナビ ツール･ド･九州 2025
主催	● ツール･ド･九州 2025 実行委員会 ● 一般社団法人ツール･ド･九州
開催地	● 長崎県（佐世保市） ● 福岡県（筑後市、八女市） ● 熊本県（南小国町、産山村、阿蘇市、高森町、南阿蘇村） ● 宮崎県（延岡市） ● 大分県（佐伯市）
レース形式	● 転戦型ステージレース（ロード）及び ● クリテリウム（小周回サーキットレース）
レースカテゴリー	● UCI アジアツアー2.1（ステージレース　クラス1）
参加者	● 18 チーム（ 国内 10、海外 8 ）　選手 106 人（20 か国）
開催期間	● 2025 年 10 月 10 日(金）～10 月 13 日（月･祝） 〇エキシビジョンレース：クリテリウム 2025 年 10 月 10 日（金）　佐世保市内 〇ロードレース：UCI アジアツアー2.1（ステージレース　クラス 1） 2025 年 10 月 11 日（土）　福岡県内 2025 年 10 月 12 日（日）　熊本県内 2025 年 10 月 13 日（月）　宮崎県内･大分県内

出所）マイナビ ツール･ド･九州 2025WEB ページ、ツール･ド･九州 2025 実行委員会資料より作成

図表 2　大会日程

ステージ	①佐世保クリテリウム
日時	2025 年 10 月 10 日（金）
距離	約 45 km
走行区間	佐世保市内 （佐世保駅周辺　約 1.5km x 30 Laps）

ステージ	②福岡ステージ
日時	2025 年 10 月 11 日（土）
距離	約 120.43 km
走行区間	筑後市（県営筑後広域公園）　→　八女市（旧国鉄矢部線黒木駅跡）

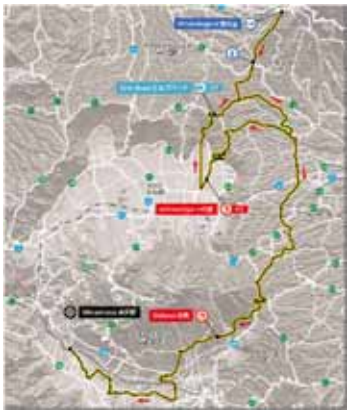


ステージ	③熊本阿蘇ステージ
日時	2025 年 10 月 12 日（日）
距離	約 114.85 km
走行区間	南小国町 （瀬の本レストハウス） →産山村 →阿蘇市 →高森町 →南阿蘇村 （南阿蘇村役場）

ステージ	④宮崎･大分ステージ
日時	2025 年 10 月 13 日（月）
距離	約 119.25 km
走行区間	延岡市 （延岡市役所） →佐伯市 （さいき城山桜ホール）

出所）マイナビ　ツール･ド･九州 2025WEB ページ、ツール･ド･九州 2025 実行委員会資料より作成

図表 3　コース概要

コース	特徴
佐世保クリテリウム	佐世保駅や商業施設の周辺約 1.5km のテクニカルなコースを 30 周回して順位を競う。 商業施設や歩道からの観戦がしやすいうえ、選手との距離が近く、臨場感が味わえる。
福岡ステージ	筑後市の県営筑後広域公園から八女市の周回コースを 6 周した後、黒木駅跡でフィニッシュ。 周回コースは旧市街地と高低差の大きい山岳コースが組み合わさり、スプリントと山岳の争いを楽しめる。
熊本阿蘇ステージ	阿蘇五岳やカルデラ等、九州の大自然が特徴。コースの大半が海抜 800m 付近となる。アップダウンが激しいコースでのレースが繰り広げられる。 雄大な阿蘇の山岳を駆け抜け、南阿蘇村役場でフィニッシュ。 
宮崎・大分ステージ	市街地を抜けた後、海岸線を北上。 平坦な区間が多くを占めるが、二つの登坂区間がレースの行方を左右する。 本大会初となる 2 県を跨ぐコース設定。

©2025 ZENRIN CO., LTD.
測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 5JHs 167-544 号
測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 5JHs 168-252 号

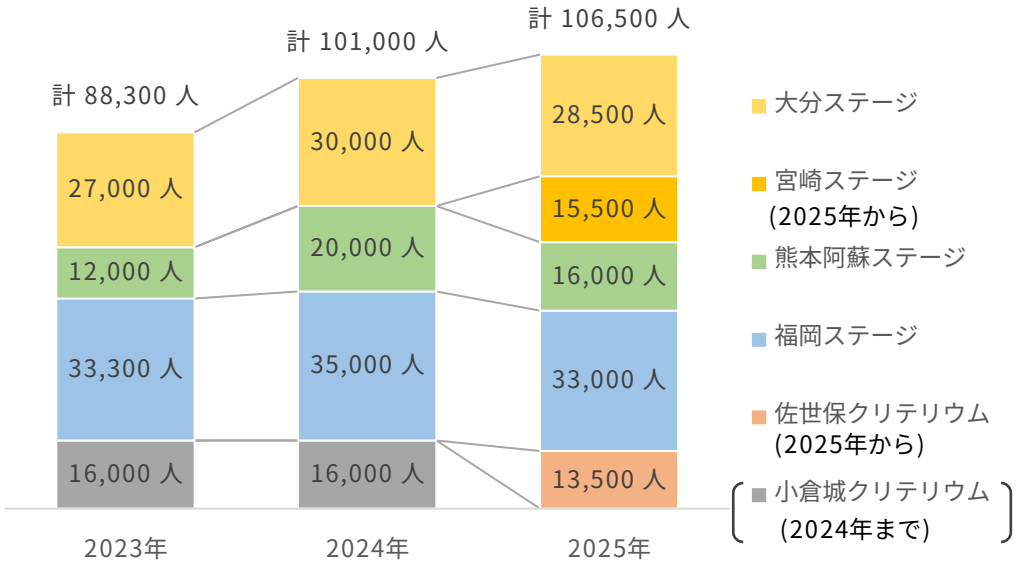
出所）画像はマイナビ ツール･ド･九州 2025WEB ページより許諾を得て転載

(2) 観客数

マイナビ ツール･ド･九州 2025（以下、2025 年大会）の総観客数は計 10 万 6,500 人と、前回大会からは 5,500 人（5.4%）増加した。2023 年の第 1 回大会以降、総観客数は増加しながら推移している。

今回初開催となった佐世保、宮崎では、それぞれ 1 万人を超える観戦者を集めた。

図表 4　観客数の推移



出所）ツール･ド･九州 2025 実行委員会　提供資料より作成

(3) 【コラム】「佐世保クリテリウム」観戦記

㈱日本政策投資銀行　九州支店　古高　美希

大会初日 10 月 10 日（金）に、長崎県初開催となる「佐世保クリテリウム」を観戦しました。当日は太陽が強烈に照りつけるなか、平日にも関わらず多くの観客で賑わっていました。会場には長崎県各地より集結した飲食店など、各ブースからの威勢の良い呼び込みの声が響き渡り、まさに自転車の祭典といった雰囲気が漂っていました。特に、自転車ロードレース漫画の「弱虫ペダル」原作者を招いたトークショーやサイン会は大混雑でした。

スタート地点のすぐ近くには、軍港佐世保を思い起こさせる海上自衛隊や海上保安庁の艦船が接岸され、船上の小学生とコース沿道の観客の熱い声援を受けて、港町のレースはスタートしました。佐世保駅や商業施設「させぼ五番街」のすぐ近くを走る周回コースで行われ、佐世保の街なかを自転車が颯爽と走っていくレースの光景は、非日常感に溢れていました。

1 週 1.5km と短いながらも急カーブと直線が複雑に入り混じったコースでは、チーム・選手の駆け引きが引っ切り無しに行われ、刻一刻と変わるレース展開にひと時も目が離せない 1 時間となりました。特にゴール前は僅差のスプリント勝負となり、私自身も興奮のあまり思わず大きな歓声を上げてしまいました。ゴールの瞬間には会場の熱気が最高潮に達し、観客のみなさんと高揚感を共有するような不思議な感覚がありました。ロードレースでは、自転車の集団が生み出すスピードと風圧に、飛ばされそうになるほどの臨場感があります。短い時間に大勢の選手が何度も目の前を駆け抜けていくクリテリウムは初心者にも大変魅力的で、人を問わずおすすめできるイベントです。皆さんもぜひ次大会では現地でしか味わえない臨場感を感じていただきたいです。今回の開催地である佐世保は旧海軍時代から軍港として栄えた歴史を有し、豊かな自然にも恵まれたとても美しい都市です。ぜひまた佐世保に（できれば自転車で）訪れ、まだ知らない佐世保の魅力を改めて味わいたいと思いました。

（「佐世保クリテリウム」の様子。筆者撮影）

2. 2025 年大会経済波及効果の推計

(1) 最終需要

1) 観光消費額

観戦者数と消費単価から消費総額の規模を推計する。

消費単価については、各開催県が統計調査として定期的に観光等による来県者の消費動向を把握･公表しているので、これを活用して推計した。

2025 年大会の観戦者による観光消費額は約 16.4 億円である。交通費をはじめ、宿泊、飲食等、各地域で消費される金額も大きい。

図表 5　観戦者の消費単価

	長崎県	福岡県	熊本県	宮崎県	大分県
宿泊客	4.4 万円	(県内客)　2.0 万円 (県外客)　4.6 万円	4.0 万円	(県内客)　1.4 万円 (県外客)　2.9 万円	4.2 万円
日帰り客	1.2 万円	(県内客)　0.7 万円 (県外客)　1.6 万円	0.5 万円	(県内客)　0.5 万円 (県外客)　0.8 万円	0.6 万円

注)　県内･県外の別については、データを公表している県のみ掲載している。

出所) 長崎県「長崎県観光統計」、福岡県「福岡県観光入込客推計調査」、熊本県「熊本県観光実統計表」、大分県「大分県観光実態調査報告書」、宮崎県「宮崎県観光入込客統計調査結果」各年版を参考に、インフレ率を勘案して推計

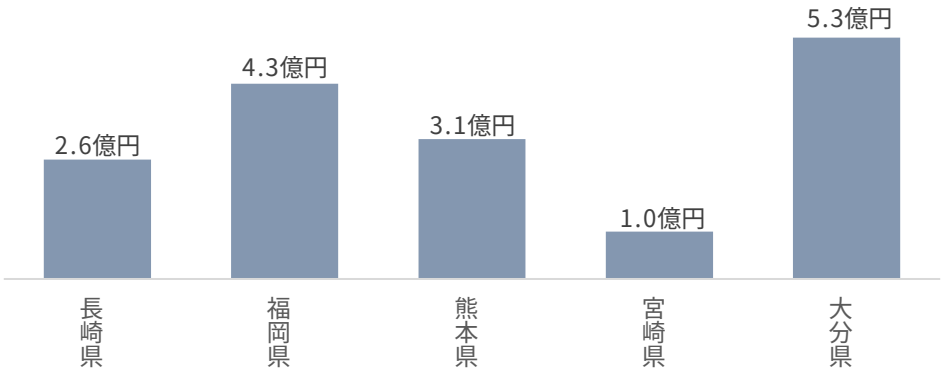
図表 6　宿泊･日帰り別　観戦者の内訳

	長崎県	福岡県	熊本県	宮崎県	大分県
宿泊客	0.3　万人	(県内客) 0.7　万人 (県外客) 0.2　万人	0.7　万人	(県内客) 0.2　万人 (県外客) 0.0　万人	1.0　万人
日帰り客	1.0　万人	(県内客) 2.1　万人 (県外客) 0.3　万人	1.0　万人	(県内客) 1.3　万人 (県外客) 0.0　万人	1.8　万人

注)　端数処理の都合上、内訳の計と観戦者数の合計が合わないことがある。

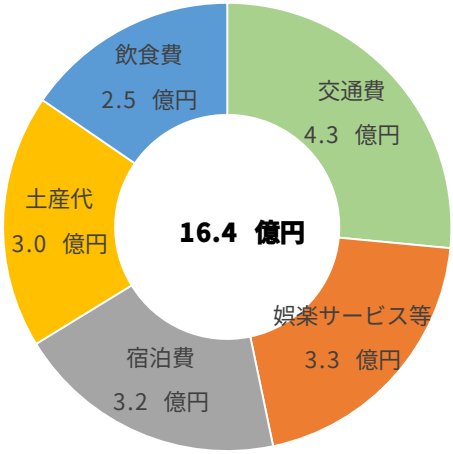
出所) 会場アンケート、類似事例等より推計

図表 7　観戦者消費額



出所）各種公表値等より推計

図表 8　観戦者消費額の内訳



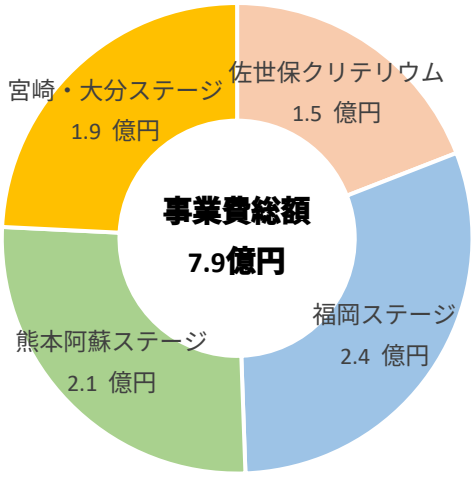
出所）各種公表値等より推計

2) 事業費

2025 年大会の事業費は計 7.9 億円と、前年比で 0.7 億円増加した。

事業費は観光消費額とあわせて、大会開催に伴う最終需要額として用いる。

図表 9　大会事業費



注）　開催地別内訳については推計値。

出所）ツール･ド･九州 2025 実行委員会資料より一部の費用を除く等して作成

(2) 経済波及効果

最終需要額を用い、各県が作成･公表している産業連関表によって経済波及効果を計測した結果、全 4 レース･5 県での経済波及効果は約 28 億円となった。

図表 10　マイナビ ツール･ド･九州 2025 の経済波及効果　まとめ

	経済波及効果		
		直接効果	間接効果[1]
佐世保ｸﾘﾃﾘｳﾑ	4 億 9,455 万円	3 億　683 万円	1 億 8,772 万円
福岡ステージ	8 億 2,865 万円	5 億 3,900 万円	2 億 8,966 万円
熊本阿蘇ステージ	6 億 3,082 万円	3 億 8,668 万円	2 億 4,414 万円
宮崎･大分ステージ（宮崎県）	2 億 2,260 万円	1 億 5,319 万円	6,941 万円
宮崎･大分ステージ（大分県）	6 億 2,040 万円	4 億 4,620 万円	1 億 7,420 万円
計	**27 億 9,702 万円**	**18 億 3,190 万円**	**9 億 6,513 万円**

注）端数処理の都合上、内訳の計と合計が合わないことがある。
算出には、パブリックビューイングの観戦者数は含まれていない。
それぞれ、各レースの開催県内（長崎県内、福岡県内、熊本県内、宮崎県内、大分県内）への波及効果である。

[1] 間接効果は二次波及効果まで計測している。

3. 観戦者に関するアンケート分析結果

(1) 会場アンケートについて

本大会では、各ステージで開催されたイベント会場や観戦スポット等にて、開催県がそれぞれ観客へのアンケート調査（紙面記入あるいは WEB 上での回答を依頼）を実施し、計 2,979 票の回答を得た[2]。設問内容は、回答者属性のほか、観戦経験、観戦目的、当日の行動、満足度等である。

以下ではその集計結果を概観する[3]。

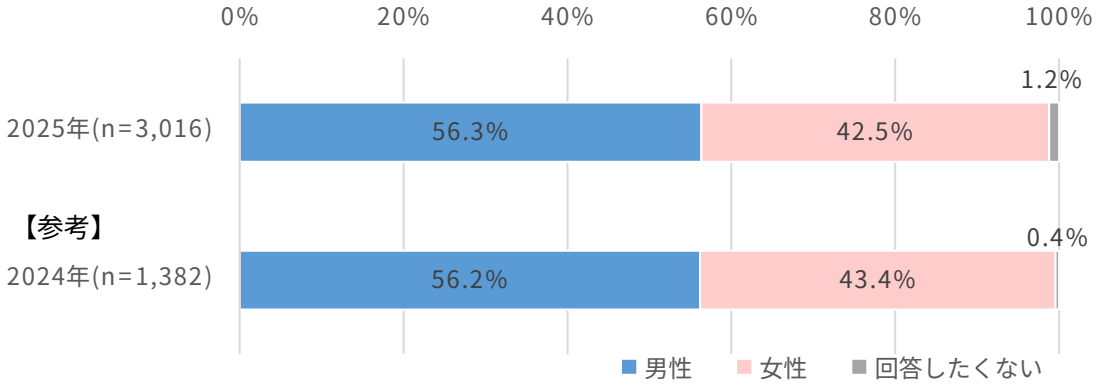
(2) アンケート結果

1）回答者属性

全体では男性が 56.3%、女性が 42.5%であった。会場によって若干の違いはあるが、全体としては昨年の観戦者と同様の傾向である。

年代構成をみると、全体では 40 代（21.9%）と 50 代（26.2%）を中心に、幅広い年代が観戦した。全体的な傾向は昨年と同様である。

図表 11　アンケート回答者の性別



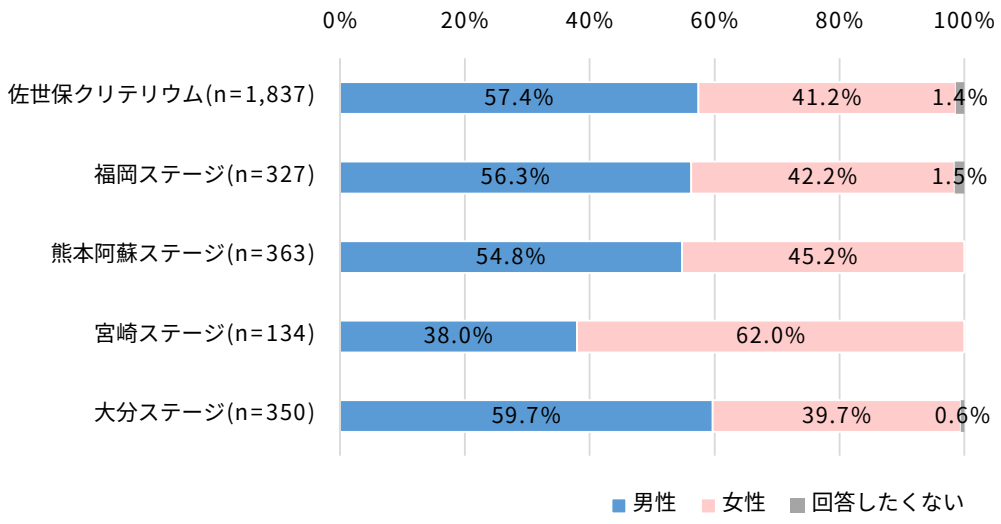
出所）会場アンケートより作成

---

[2] 佐世保クリテリウム会場については、レース観戦者への後日のアンケート結果も含む。

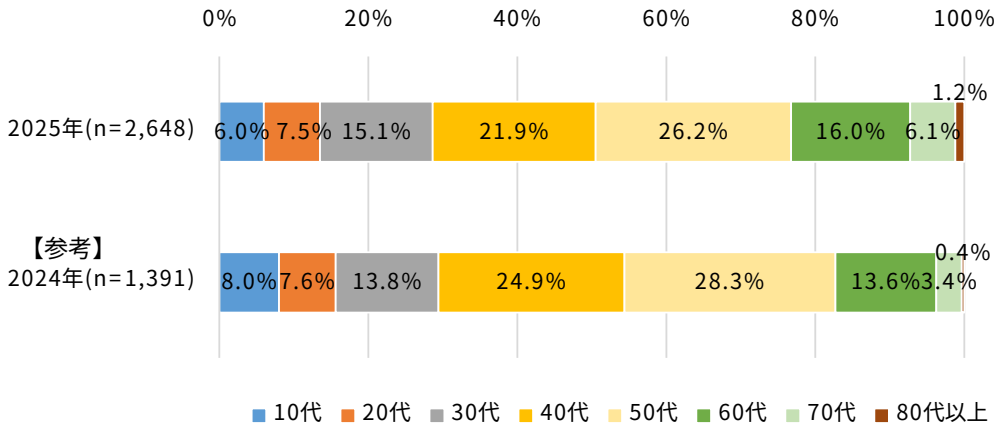
[3] 図中nは当該分析におけるサンプル数を示す。原則として無回答は除いて集計しているため、図表ごとに n が異なることがある。また、端数処理の都合上、図中で内訳の合計と総計が一致しない場合がある。
なお、宮崎･大分ステージは連続した一つのステージであるが、分析上、アンケートの実施地点により宮崎県と大分県で回答を分けており、簡便のため図中ではそれぞれの表記を宮崎ステージ、大分ステージとしている。
各県により設問･選択肢は異なるが、本稿では共通する設問を中心に取り上げている。
2024 年の結果については、昨年第 2 回大会時に実施されたアンケート結果を用いている。会場等が今回調査と異なるため、参考程度とされたい。

図表 12　アンケート回答者の性別（会場別）



出所）会場アンケートより作成

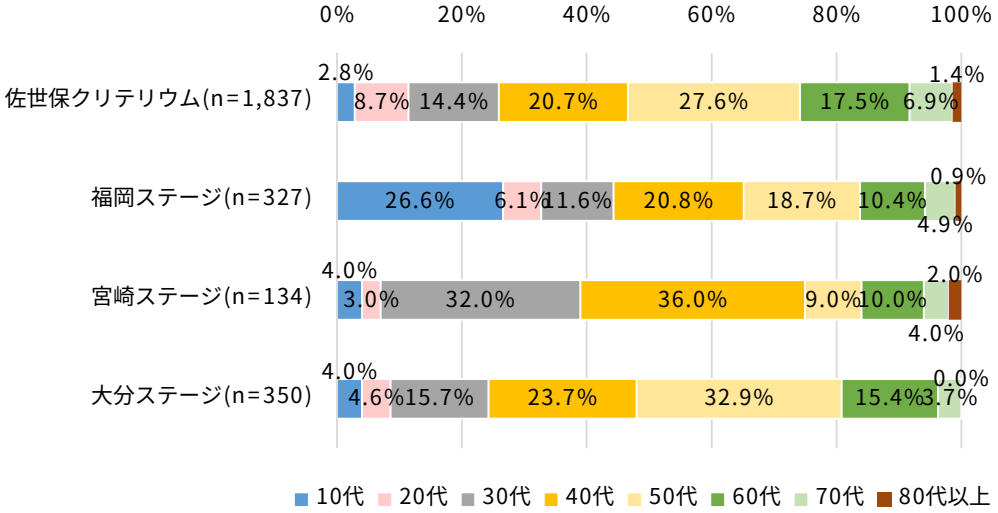
図表 13　アンケート回答者の年代構成



注）　集計の都合により 2025 年の値に熊本阿蘇ステージは含まない。

出所）会場アンケートより作成

図表 14　アンケート回答者の年代構成（会場別）



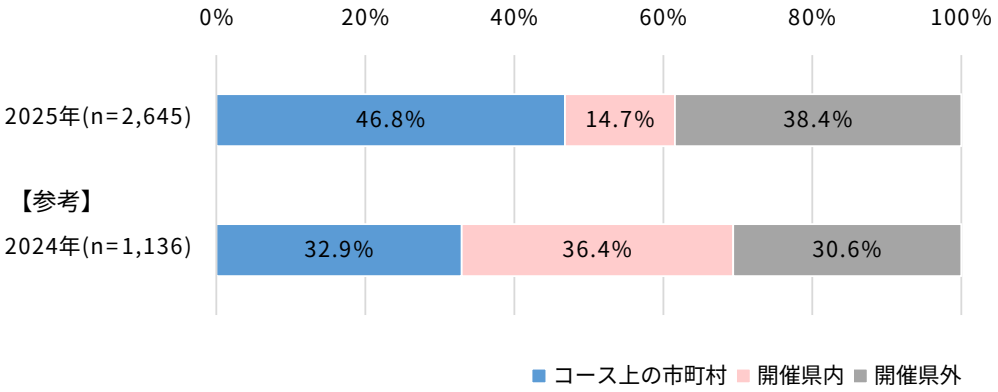
注）　集計の都合により熊本阿蘇ステージは図示していない。

出所）会場アンケートより作成

全体では観戦者の半数近くがコース上にある市町村の住民であったが、県外からも 4 割近くの人が観戦に訪れた。

長崎県と宮崎県は、今年、初開催となったこともあり、地域の関心を集めたイベントとなっていた様子がうかがえる。

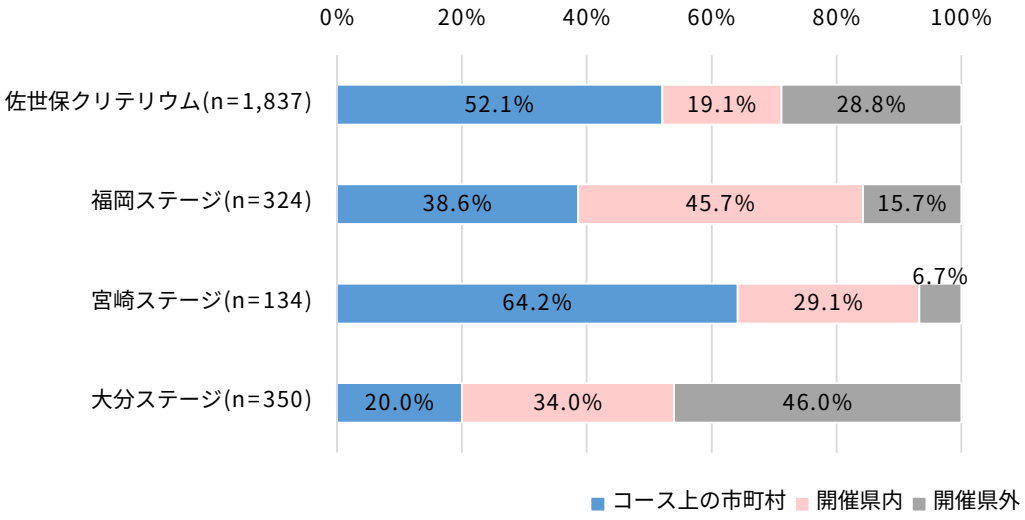
図表 15　居住地



注）　集計の都合により熊本阿蘇ステージは含まない。

出所）会場アンケートより作成

図表 16　居住地（会場別）



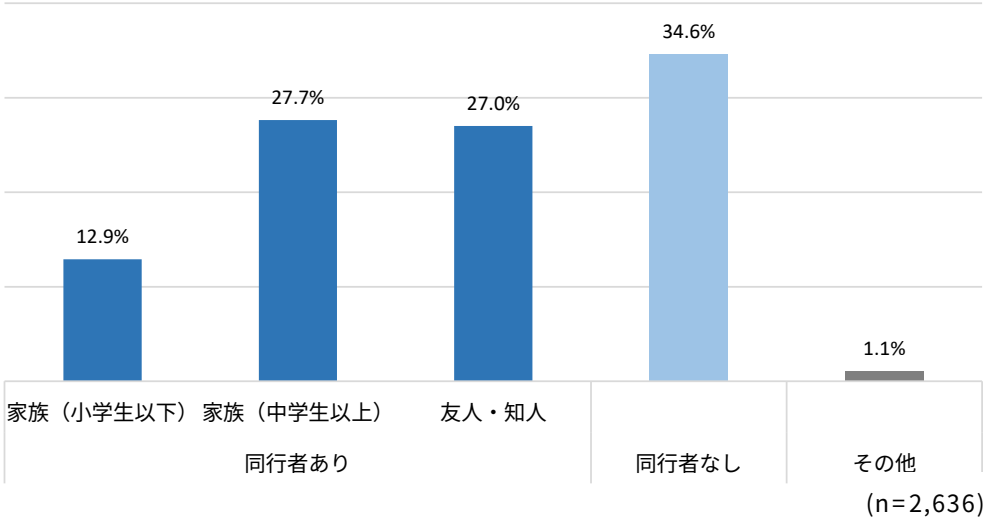
注）　集計の都合により熊本阿蘇ステージは図示していない。

出所）会場アンケートより作成

2）同行者と来場目的

一人で来た（同行者なし）観戦者は約 3 割にとどまり、約 7 割が家族や友人･知人と連れ立って来場している。来場目的もレース観戦だけでなく、イベント参加や飲食･展示販売ブース巡りなども楽しんでおり、レジャーとして家族･グループで楽しんでいる様子がうかがえる。

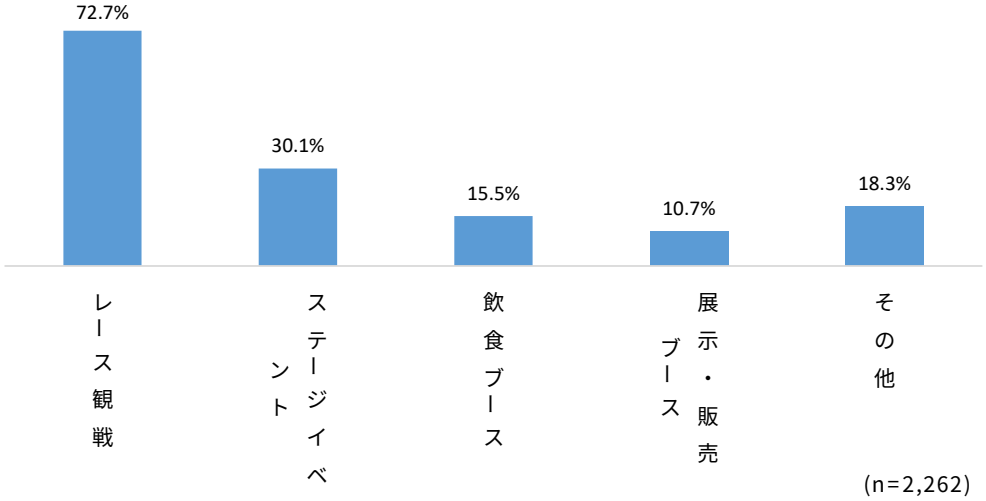
図表 17　同行者



注）　複数回答。集計の都合により熊本阿蘇ステージは含まない。

出所）会場アンケートより作成

図表 18　来場目的



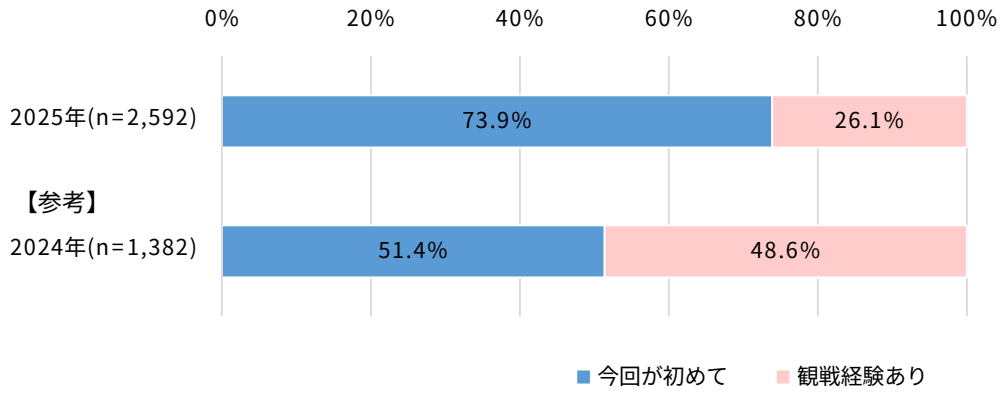
注）　複数回答。集計の都合により熊本阿蘇ステージは含まない。

出所）会場アンケートより作成

3）観戦経験

全体では、今回初めてツール･ド･九州を観戦したという回答が四分の三を占める。ただし福岡、大分といった過年度のレース開催県では、観戦経験ありとするリピーターが一定数確認できる。今後の観戦者数の拡大に向けては、新たなファン層の獲得とリピーターの増加の両方が必要となってくる。

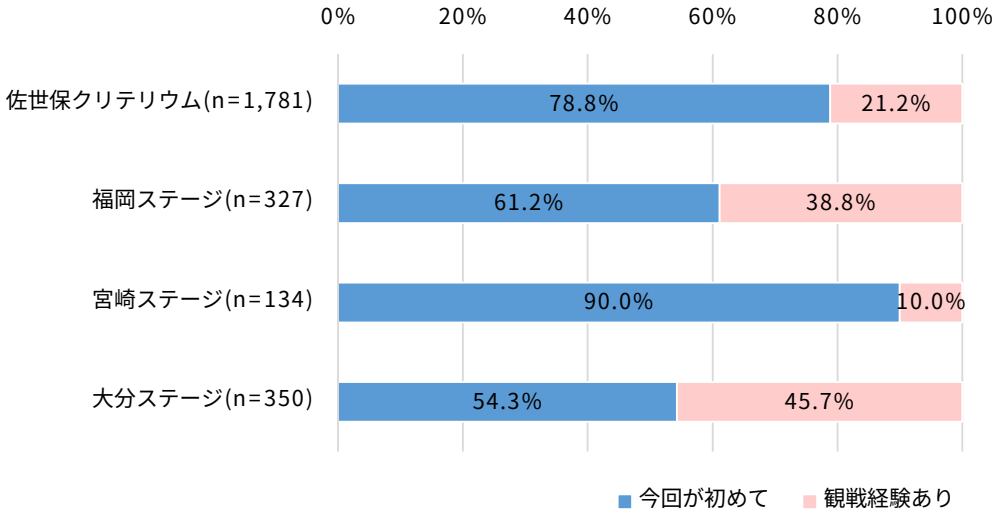
図表 19　ツール･ド･九州の観戦経験



注）　集計の都合により熊本阿蘇ステージは含まない。

出所）会場アンケートより作成

図表 20　ツール･ド･九州の観戦経験（会場別）



注）　集計の都合により熊本阿蘇ステージは図示していない。

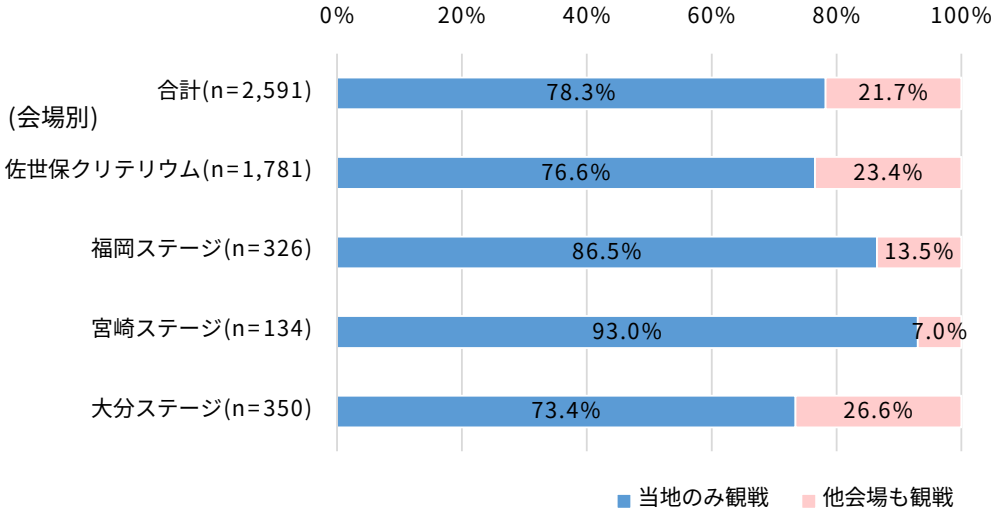
出所）会場アンケートより作成

4）他会場での観戦状況･意向

アンケート実施会場に加え他会場での観戦状況についても確認すると、約 2 割が他会場でも観戦した／予定であると回答した。

一つのステージだけでなく、複数ステージをハシゴして観戦するファンも 2 割程度いることが確認できる。

図表 21　他会場の観戦状況



注）　集計の都合により熊本阿蘇ステージは図示していない。
福岡会場では佐世保クリテリウムの観戦有無のみ確認（以降のステージ観戦予定については回答を得られていない）。

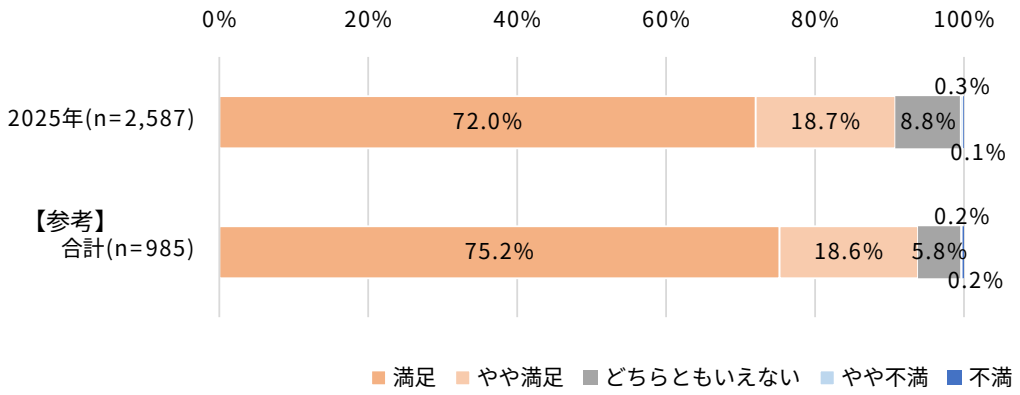
出所）会場アンケートより作成

5）満足度

2025 年大会について、来場者の約 7 割がレース観戦に「満足」しており、「やや満足」（約 2 割）もあわせると、あわせて約 9 割が満足しているとの結果になった。

いずれの会場も不満・やや不満との回答はわずかであり、総じて満足度の高い大会となっている。

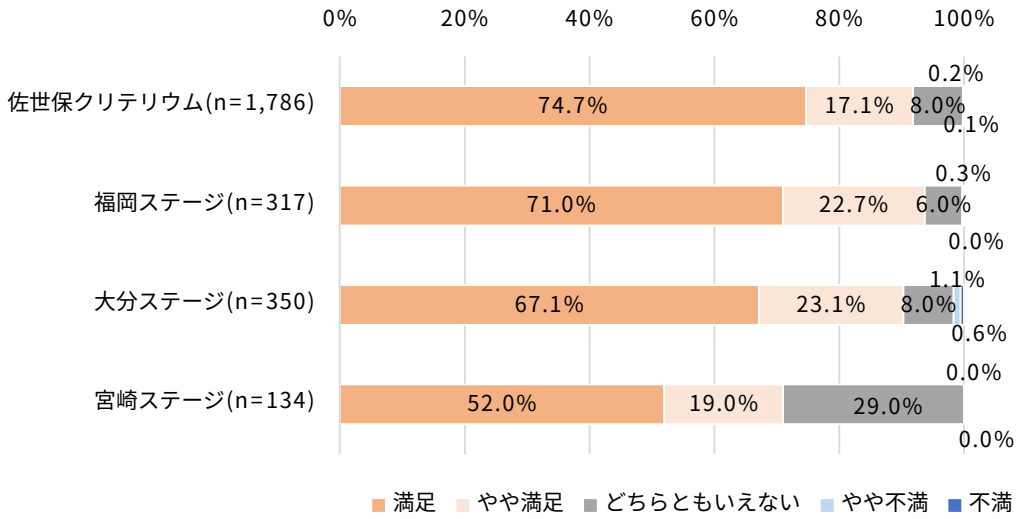
図表 22　満足度



注）　集計の都合により 2025 年の数値に熊本阿蘇ステージは含まない。同様に 2024 年は福岡・大分のみの合計である。

出所）会場アンケートより作成

図表 23　満足度（会場別）



注）　集計の都合により熊本阿蘇ステージは図示していない。

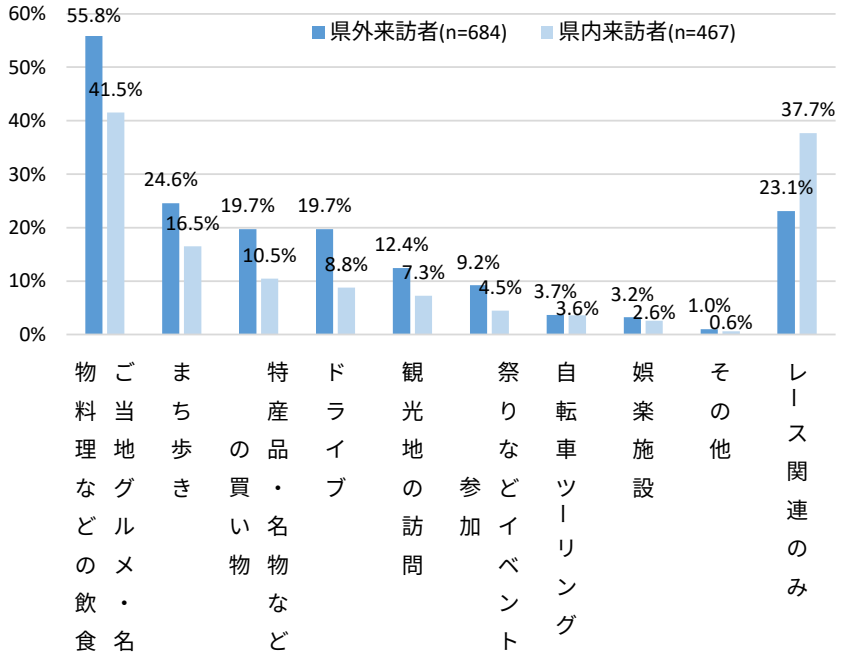
出所）会場アンケートより作成

6）観光行動

レース観戦以外に行った観光行動について、開催市外からの来訪者に関する観光行動をみると、飲食･買い物･まち歩きほか、他の観光地を訪れる等の行動も確認できる。

特に、県外からの来訪者ではその実施率も高い。レース観戦をきっかけに、訪問地の観光資源を楽しんでいる様子がうかがえる。

図表 24　観光行動



注）　複数回答。集計の都合により、佐世保･福岡･大分のみが対象である。

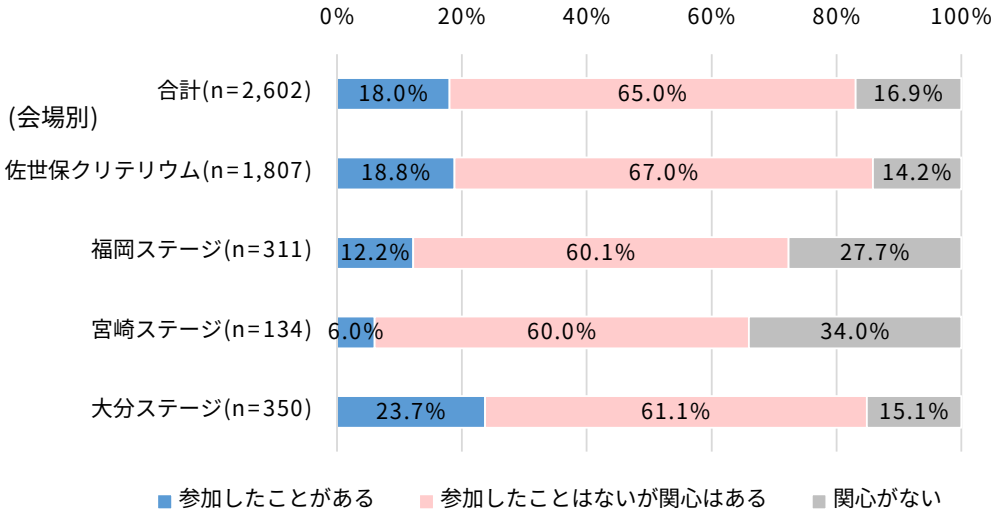
出所）会場アンケートより作成

7）自転車ツアーへの関心

自転車に乗って地域の観光地を巡る等の自転車ツアーについて、「参加したことがある」との回答は全体で約 2 割だが、「参加したことはないが関心はある」との回答は約 7 割にのぼる。

自転車愛好者だけでなく、大会をきっかけに自転車に興味を持った観光客にも自転車ツアーを訴求することで、効果的な誘客を行える可能性がある。

図表 25　自転車ツアーへの関心



注）　集計の都合により熊本阿蘇ステージは図示していない。

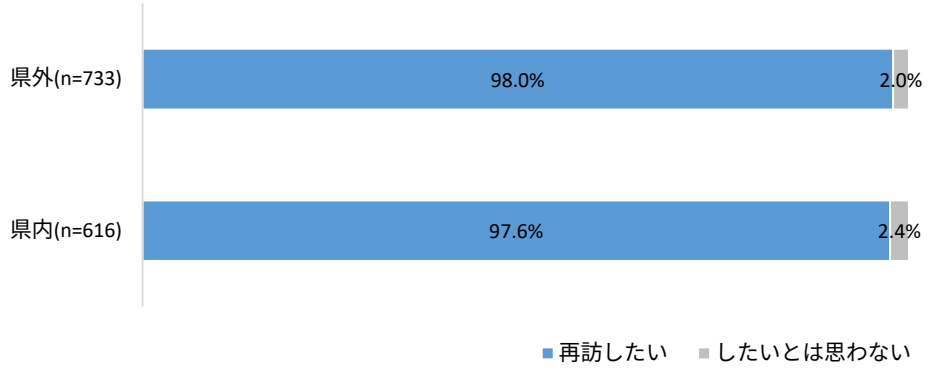
出所）会場アンケートより作成

8）再訪意向

開催市への再訪意向については、県外･県内問わず、ほとんどの来訪者が再訪したいと回答しており、レース観戦をきっかけに、飲食や観光を通じて当地のファンとなっているケースが確認できる。

今後、この新たなファン層が繰り返し当地を訪れるような仕掛けづくりができれば、潜在的なリピーター層の実際の再訪につなげられる可能性が高い。

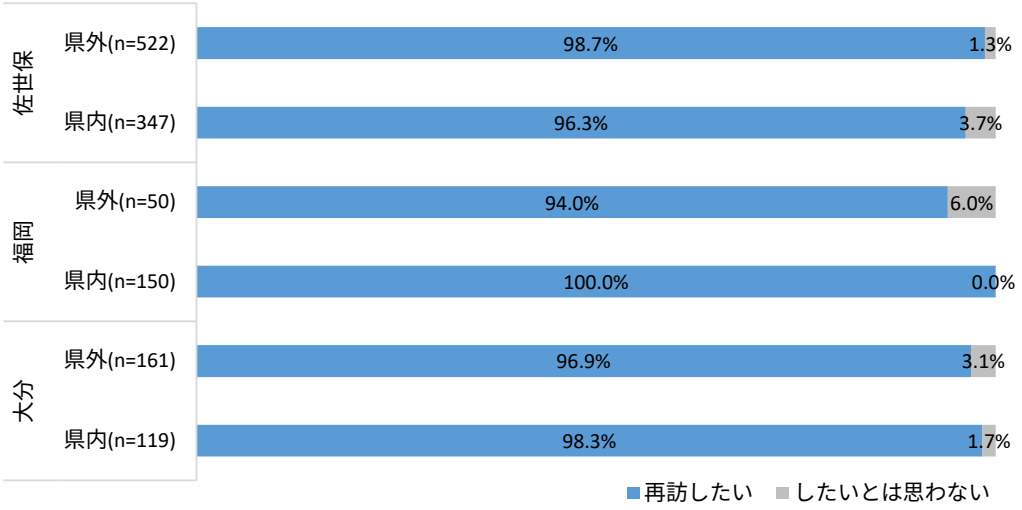
図表 26　居住地別　再訪意向



注）　集計の都合により、佐世保･福岡･大分のみが対象である。

出所）会場アンケートより作成

(参考) 会場別･居住地別　再訪意向



出所）会場アンケートより作成

4. 【レポート】ツール・ド・九州をもっと盛り上げるために！フランスの伝統レース「ダンケルクの 4 日間」から学ぶヒント

㈱日本政策投資銀行　九州支店　長迫　華子

皆さんは、サイクルロードレースと聞いて何を思い浮かべますか？スピード、熱気、そして沿道の歓声――。世界には“レース”を超えた“お祭り”として根付いている大会が多くあります。本稿では、自転車大国・フランスで開催される伝統レース「ダンケルクの 4 日間」、および、同レースと同時開催される市民参加型サイクリング大会（la ″Rando des 4 Jours by LH″）を運営する「リール・アルデロ友の会」の取り組みから、ツール・ド・九州をもっと盛り上げるためのヒントを探ってみたいと思います。

■「ダンケルクの 4 日間（4 Jours de Dunkerque）」とは

出所：CraftMAP よりDBJ 作成

ダンケルクは、フランス本土最北端に位置する人口約 9 万人の都市です。ベルギーとの国境に接するオー＝ド＝フランス地域圏ノール県にあり、ドーバー海峡に面したフランス第 3 の港湾都市として発展してきました。

「ダンケルクの 4 日間」は、ダンケルクの周辺地域で毎年 5 月に開催される、UCI（国際自転車競技連合）プロシリーズのサイクルロードレースです。1955 年に戦後復興の願いを込めてスタートし、当初はその名の通り 4 日間のレースでしたが、近年は 6 日間のステージに拡大されています。フランス国内外から多くのプロチームと選手が参加する一大スポーツイベントで、2025 年の大会には 23 チームが参加、そのうち13チームがツール・ド・フランス等にも出場する世界最高峰のワールドチームでした。

当レースは非営利団体であるダンケルク4日間レース組織委員会が主催しており、2 名の常勤職員と 140 名の通年ボランティア、レース時に集結する 3,500 名のボランティアによって運営が支えられています。コースは、地域圏内の全ての県を回り、11 のステージ都市を巡る形で設定、レース期間は地域圏全体が盛り上がりを見せます。見せ場となる山岳やスプリント（全速力で加速する）区間を設けているほか、ゴールとなる都市では観客が観戦しやすいように周回コースが設定され、レースのフィニッシュには歴史的な場所や景観が良い観光スポットが選定されるなど、テレビ映えが考慮されています。

当レースのプロモーションは年間を通じて行われ、例年 12 月にレース概要を発表、4月半ばにはスポンサーや政治家、メディアを集めた出場チームの紹介イベントを開催するほか、毎月オンラインでジャーナルを発行し、レースや選手の魅力を継続的に発信しています。

■有名選手の招致による知名度アップ

当レースでは、知名度アップに向けて、有名選手の招致のための取り組みを進めてきました。例えば、大会理事長自ら複数のチームの監督やマネージャーにヒアリングを行い、有力チームが賞金よりも UCI ポイントを重視していることを確認したことから、6 日間の日程を 1 日開催のレースと 5 日間開

催のレースに分けることで、UCI ポイント獲得のチャンスを増やすよう工夫を凝らしています。また、レースの日程も、他の UCI 公認レースや世界選手権などと重ならないように配慮し、有力チームが参加しやすい時期に開催しています。これらの取り組みにより有名選手の参加が進んだ結果、当レースには、フランス国内だけでなく隣国ベルギーからも多くの観戦客が訪れるようになりました。中には、当レースのすべてのステージをキャンピングカーで追いかけながら観戦する熱狂的なファンもおり、2026 年のレース期間のホテルの予約も既に埋まっているなど、当レースが地域の観光需要を大きく引き上げている様子がうかがわれます。

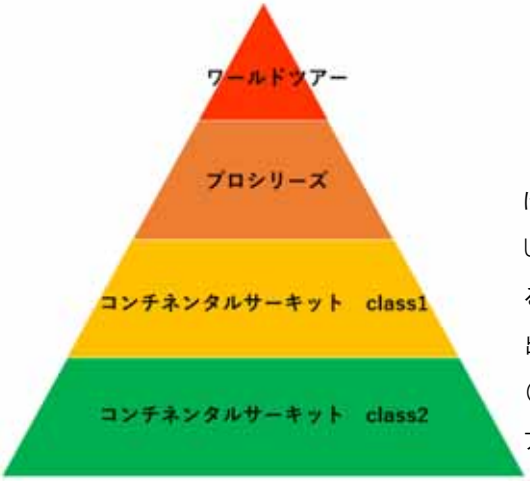
■スポンサーや地域と一体となった“お祭りムード”づくり

「ダンケルクの 4 日間」の盛り上がりは、レースだけではありません。レースのスタート前には、スポンサー企業等の華やかなキャラバン車の隊列が 80～100 台もコースを走り、企業グッズ等のノベルティを沿道にバラまきながら行進していきます。このパフォーマンスにより、町には”お祭り”の雰囲気が一気に漂います。キャラバン隊の行進を楽しみにしている地域住民や観客も多く、大会を盛り上げる重要な存在になっています。

また、運営サイドはレース前に開催地域の各地方自治体に盛り上げ協力を依頼します。それに応え、地方自治体では、学校や商店と連携して町を装飾したり、子供向け絵画コンクールを開催して優秀者を大会表彰の壇上に上げたりと、地域全体でレースの雰囲気を盛り上げます。こうした取り組みによって、地域全体がお祭りムードに包まれます。

写真 1：キャラバン車（大会理事長より提供）

写真 2：レースの様子（大会理事長より提供）



（DBJ 作成）

（参考）UCI 公認レースカテゴリーと UCI ポイント

UCI 公認レースグレードは大きく分けて4つあり、上に行くほどよりハイレベルなチーム（選手）の招聘が可能。また、UCI 公認レースに出場した選手は、順位に応じて付与される UCI ポイントを得ることで世界選手権やオリンピックなどの出場枠獲得にも繋がる。

（ツール・ド・九州は、UCI コンチネンタルサーキットアジアツアーの class1 として開催。）

■市民サイクリング大会「la ″Rando des 4 Jours by LH″」とは

2025 年には、地域が熱気に包まれる「ダンケルクの4日間」の最終日に、市民参加型のサイクリング大会「la ″Rando des 4 Jours by LH″」が開催されました。これは、プロレースと自転車ツーリズムとの相乗効果を高めるべく、レース組織委員会と、長年にわたって大規模市民サイクリング大会「リール・アルデロ」を運営している「リール・アルデロ友の会」とが共催したコラボレーションイベントです。

同イベントでは、コースのすべてについて「ダンケルクの 4 日間」のレースコースを走るわけではありませんが、スタート区間とゴール区間の 10km 程度はレースと同じになっており、参加者はレースコースを走っているような気分を味わえます。また、同イベントのゴールはレースの想定ゴールタイムの1時間半前に締め切ることで、レースには影響を与えず、イベント参加者もレースのゴールシーンを観戦することが可能です。大会参加者は、ゴールシーンにおいてレース観戦者から暖かい拍手で迎えられるほか、表彰台に上がって写真撮影ができるなどの特典もあり、これらがレース会場の雰囲気を温めることにも繋がっています。

2025 年のイベントには 1,500 名が参加、2026 年には 2,500 名へと参加者を増やし、今後、「リール・アルデロ」本大会と同様、恒例の市民サイクリング大会として定着させていく方針となっています。

写真 3：市民サイクリング大会の様子①

(Photo Laurent Sanson / Les Amis de Lille-Hardelot)

写真 4：市民サイクリング大会の様子②

(Photo Laurent Sanson / Les Amis de Lille-Hardelot)

■「リール・アルデロ」について

「リール・アルデロ友の会」は、オー＝ド＝フランス地域圏の首府リールにて、1980 年に自転車愛好家によって創設された非営利団体です。7,500 人が参加する大規模市民サイクリング大会「リール・アルデロ」を毎年開催しており、運営を担う「la ″Rando des 4 Jours by LH″」にもその経験・ノウハウが活かされています。

「リール・アルデロ」は毎年 6 月初めに行われ、その名の通り、リールをスタートしてドーバー海峡のアルデロ海岸でフィニッシュ、途中のコースは毎年変化します。誰でも参加を申し込め、沿道の風景と各地域の特色を満喫できるように配慮されていますが、完走は決して容易ではなく、フルマラソンのような挑戦の場でもあります。長距離サイクリングに挑戦し、その楽しさを体験できる場として、多くの人々に愛される大会です。

■大会スポンサー企業が積極的に参加

「リール・アルデロ」には家族、友人、自転車同好会等による参加のほか、スポンサー企業、警察、軍などからの団体参加もあります。スポンサーには大手銀行や IT 企業などが名を連ねていますが、これらのスポンサー企業の多くで社内の自転車同好会が組織され、業後に合同練習が盛んに行われています。これらの企業内自転車同好会には、運動による健康増進に加え、サイクリング大会参加に向けて普段から切磋琢磨することによる職員の団結力強化、職員のやりきる力を生むなどの効果が期待されており、企業サイドからも積極的なサポートが行われています。こうした背景もあり、2025 年の大会では 7,500 人の予約枠がわずか 30 分で埋まる等、大変な人気を誇っています。

■交通への配慮・参加者の安全確保に向けた工夫と警察や軍との連携

「リール・アルデロ」は、約 7,500 人が参加する大規模イベントですが、コースは公道で、かつ、スタートやゴールなどの一部分を除き交通規制なしで行われます。そのため、交通への配慮と参加者の安全確保に向け、運営やコース設定の面で様々な工夫がなされています。例えば、出発は 1 時間半の時間を設けて実施し、初心者が先に、熟練者が後にスタートします。また、コースのうち、最初に広く走りやすい道を、その後に登り坂などの難所を設定しています。そうすることで、自然と参加者のレベルごとに隊列が分散し、交通への影響が軽減されるとともに、参加者各自が自分のペースでサイクリングを楽しむことができます。さらに、交通量の多い交差点などの危険箇所には、交通整理のためのボランティア配置のほか、警察や軍、消防への協力依頼も行い、道路管理者との協議のもと必要に応じて交通規制も行うことで、安全面への最大限の配慮がなされています。同大会には警察・軍・消防などもチームを組んで参加するなど、大会運営に関して相互の信頼関係・協力関係が構築されていることが、安全確保のうえで重要なポイントとなっています

【おわりに】

さて、今回紹介した「ダンケルクの4日間」、および、「リール・アルデロ友の会」の取り組み事例から、今後のツール・ド・九州の更なる発展に向けたヒントが見えてきたのではないでしょうか。「ダンケルクの 4 日間」からは、有名選手の招致によるレースのレベルアップや、スポンサーや地域と一体となったお祭りムードづくりが大会の活性化にとって重要であることが分かりました。また、「リール・アルデロ友の会」の取り組みからは、交通への影響軽減・安全の確保に向けた様々な工夫に加え、地域住民やスポンサー企業職員、警察・軍などが大会に参加することで、関係者の大会への当事者意識・愛着が強まり、相互の信頼関係・協力関係が醸成される効果がうかがわれました。

「ダンケルクの 4 日間」と「リール・アルデロ」のコラボレーションイベントである「la ″Rando des 4 Jours by LH″」は、サイクルロードレース大会と市民サイクリング大会の同時開催によって相乗効果を生み出し、主なステークホルダーである①スポンサー、②観光客、③開催地域の付加価値を高めることを狙ったものです。①スポンサーにとっては広告効果の拡大に加え、社員の健康増進や団結力強化の機会に、②観光客にとっては観光目的の拡大・多様化や満足度向上の機会に、③開催地域にとっては経済波及効果の拡大に加え、住民のシビックプライド醸成、警察等との相互理解推進の

機会になることが、具体的な効果として期待されています。

自転車に対する社会的受容の相違や道路事情等を考慮すると、日本においてフランスと同様に市民サイクリング大会を開催することは決して容易ではないと思われますが、先行するマラソン大会等で蓄積されたノウハウ等も活用することで、サイクルロードレースと市民サイクリング大会の同時開催実現を目指していくことが、ツール・ド九州の今後の方向性として考えられるのではないでしょうか。両者が相乗効果を生み出し、各ステークホルダーに高い付加価値がもたらされることで、ツール・ド九州の持続的な運営が可能となり、ひいては九州がサイクルツーリズムの世界的な聖地となる。そんな未来を期待したいです。

末尾になりましたが、本コラムの執筆にあたってヒアリングにご協力いただきました、ダンケルク4日間レース組織委員会理事長のエリック・マルシリー様、「リール・アルデロ友の会」ゼネラル・コーディネーターのドミニク・ペルサン様に心より感謝申し上げます。

おわりに　ツール･ド･九州とともに発展する地域を目指して

(1) 2025 年大会の成果

第 3 回目を迎えたツール･ド･九州は、長崎県、福岡県、熊本県、宮崎県、大分県の 5 県で開催され、総観客数は 10 万 6,500 人と前回大会から 5.4%増加し、経済波及効果は約 28 億円となった。初開催となった長崎県佐世保市、宮崎県延岡市でも多くの観戦者を集め、地域経済への貢献が確認された。

会場アンケートでは、来場者の約 9 割が満足と回答し、開催地への再訪意向もほぼ全員が示すなど、大会が地域の新たなファン層創出に寄与していることが明らかになった。また、県外からの来訪者が約 4 割を占め、レース観戦を起点とした飲食･買い物･観光地訪問等の観光行動も活発に行われており、大会が観光振興に果たす役割も大きい。

(2) 今後の課題と発展の方向性

ツール･ド･九州の経済波及効果の増大のためには、新規ファン層の獲得とリピーターの定着の両立が重要となる。特に、県外からの観戦者や県内からであっても他会場のホッピング観戦を行うような観戦者を増やしていくこと、そして九州内外でのサイクル･ファンを中心とした新たな地域経済活性化の取組が必要となろう。

フランスにおける「ダンケルクの 4 日間」の事例からは、有名選手の招致によるレースの質の向上、スポンサーや地域と一体となった祭りムードの醸成、そしてサイクルロードレース大会と市民サイクリング大会の同時開催による相乗効果創出など、参考となる取り組みが多く示された。

特に、市民参加型サイクリング大会の開催は、①スポンサー企業の広告効果拡大と社員の健康増進、②観光客の満足度向上と滞在機会の拡大、③開催地域の経済波及効果拡大と住民のシビックプライド醸成、という多面的な効果が期待できる。会場アンケートでは、自転車ツアーへの関心層が約 8 割に上るなど、潜在的なニーズも確認されており、今後これらの示唆やポテンシャルを活かし、中長期的に市民参加型のイベントが実現されていくことが期待される。

(3) むすび

ツール･ド･九州は、世界トップレベルの自転車ロードレースであり、また、九州の魅力を国内外に発信する重要なイベントとして、定着を見せている。今後さらに同大会の経済波及効果を拡大していくうえでは、レース大会の質的向上を図りつつ、観戦者の観光行動や再訪意向の高さをサイクルツーリズムなど地域の継続的な観光振興へとつなげていく仕組みづくりが必要と考えられる。

サイクルロードレースの魅力向上と市民参加型イベントの展開、そして地域の観光資源との連携強化により、ツール･ド･九州が九州全体のサイクルツーリズム振興の核となり、さらには九州が世界的なサイクリングの聖地として発展していくことを期待したい。

DBJ

©Development Bank of Japan Inc.2026
本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性･確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載･複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用･転載･複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

(お問い合わせ先)
株式会社日本政策投資銀行　九州支店　企画調査課　Tel：092-741-7737　Mail：kyinfo@dbj.jp